

パンデミック期の北京で生きる医師たちの日常

大友聡
(翻訳業)

I. はじめに

新型コロナウイルス感染症は、中国・武漢における流行を契機に世界中で「危機」として認識されるようになった。このことは差別や偏見も生んだが、パンデミックの最前線における人びとの手記やインタビューから、中国社会のさまざまな側面について理解を深めることもできるようになってきた。本稿は、北京市内で働く医師たちの語りから、パンデミック期の医師たちの経済状況の変化やワークライフバランスの現実をとらえたものである¹。紙幅の制約上、3つのケースに分けて語りを紹介し、簡潔な解説を加える。学術的論稿ではないが、本稿が中国の医療従事者のあいだのジェンダーの問題がパンデミックにおいてどのように変化しているのかを表す資料として参照されれば幸いである。

II. 医師たちの語り

1. 高瑤香さん（女性、48歳、呼吸器内科
指導医、副主任）

高さんは北京市内の病院で指導医を務めているが、武漢でも72日間最前線で治療にあたっていた。アメリカの高校に留学中の娘がいるが、猫との2人暮らしである。

——パンデミック直前の北京はどんな様子でしたか？

高「普段夕飯は、レジデントのドクターと病院で食べていた。病院で夕飯を食べて家に帰ってからは基本的に毎日勉強、たまに医師の同僚と食事。年末だったので、いろんな学会や忘年会もあった。みんなで新年を迎える楽しい雰囲気があった。」

——なるほど。武漢から北京に戻ってからはどんな感じですか？

高「6月に少し感染者が増えたけど、今回（2020年12月）はそれよりも深刻な感じがする。ここ数日で北京の状況も変わり、新たな患者がみつかった

1 筆者は2006年から2013年にかけて北京の首都医科大学医学部に留学し、その後1年間、市内の病院でインターンを経験した。この頃からのネットワークを活かし、2020年11月から2021年2月にかけて、20代後半から40代の医師に聞き取りをした。聞き取りはアプリ「WeChat」のチャット機能を利用した。なお本稿に登場する医師の氏名はすべて仮名である。

ことでみんなとても緊張し始めている。実は私の住んでいるところの隣のビルも封鎖されてしまったの。中国は『足りないよりは、やりすぎの方がマン』と考えている。この数日は外来もとても少なく、通りの車や人も少なかった。収入も少なくなった。一番少ないとき、2月から8月くらいまでは去年の半分くらい。9月以降は少し良くなってきた。武漢に行った手当もあった。でも手当を足しても、北京に残った人たちよりは多いかもしれないけど、普段の収入よりは少ない。」

——収入の影響は大きいですか？

高「病院の収入は患者からでしょう。受け入れ患者を減らしているから私たちの給料も減る。一番収入が減った科では、給料は3分の1になった。これでは若い医師は住宅ローンが支払えなくなる。プレッシャーは大きい。」

2. 李英さん(女性、32歳、循環器内科医)

李さんは授乳中の若い医師であり、当直室での休憩中に聞き取りに答えてくれた。

彼女は武漢が封鎖された2020年1月23日の翌日、夫(42歳、循環器内科医)、娘(1歳)を連れ実家の遼寧省に自家用車で帰省した。だが、その日のうちに北京の勤務先の病院から連絡があり、1月28日には全員北京に戻り、自宅隔離14日間を経てから

出勤するようにと指示があった。

——どんな影響がありましたか？

李「一番大きな影響は経済。自主隔離が終わった後に病院に行っても、病人もいない。毎日出勤して座っていても意味がないので、10人体制を2名のドクターだけが出勤するようにして、8名は自宅待機ということになった。2、3月はそんな感じで、ほとんど家にいた。労働と報酬は比例するでしょう。頭金580万元(約9400万円)で分譲マンションを買ったのだけれど、最初の3年は毎月2万元(約32万円)のローン。いまは5千元(約8.1万円)のローンをあと30年。もし2万元のままでパンデミックになっていたら危なかった。」

李英さんのマンションは、東四環路、地下鉄6号線駅近くにある3LDKである。李英さんの住んでいる朝陽区²の直近3年間では、平均価格は約7.3万元/m²で推移している(安居客, 2020)。日本のこぢんまりした2LDKを約60m²として計算しても、438万元(約7100万円)である。毎月2万元のローンは、かなり高額だ。

このように経済的な状況は不安定になったが、夫婦関係はむしろ改善しているという。

李「以前は朝早く家を出て夜遅く帰ってくるから、家では基本的に寝るだけ

2 北京市内東部に位置し、人口が最も多く、経済規模が最も大きい地区。北京首都国際空港もこの区内にある。

だった。家族みんな一緒の時間はほとんどなくて。でもパンデミック後は、子どもがだんだんパパの存在を知って、パパをとっても好きになったみたい。

出産してから自分の時間はなくなった。この点はもうどうしようもない。子どもが生まれてからは私の母も一緒に3人（と子ども）で暮らしている。私と同じ遼寧省の出身の「保姆」^{バオム}（家事労働者）を雇っているけど、住み込みではない。保姆には月5500元払っていて、9時から夕方6時くらいまで家事をお願いしている。都市封鎖のときは交通機関も使えなくなったので、3～4月、それから6月はうちに住んでもらった。子どもの遊び部屋にソファベッドがあるので、そこに寝てもらっていた。あとは夫婦で一つの寝室、娘と私の母で一つの寝室、そんなふうに暮らしていた。

以前は夫婦で一緒にご飯を食べる時間もなかったけど、今は一緒に食べられる。話せる時間も増えたと思う。でも、パンデミックによるストレスは大きい。経済的な問題、それからこれからの職位の変化など。

子どもの面倒をみているのはうちの母なんだけど、夫は少し神経質で、子どもが心配でいろいろ口出ししてくる。うちの母もあまりそういうのを聞く方ではないけど、お小言を言われると、母はムツとしている。夫のお小言がかなり深刻。母からした

ら、あなたの娘の面倒をみてあげているのに、私のこと信頼していないのか？ってそう思っているんじゃないかな。」

3. 王敬さん（男性、31歳、泌尿器科医）・唐美玲さん（女性、28歳、総合診療内科医）

2人は夫婦であり、2020年9月に子どもが生まれた。2人とも北京の生まれで、夫婦は約50km離れた別々の市中病院に勤めている。現在、唐さんは128日間の産休を終え、ちょうど職場に戻ったばかりである。

中国社会における産休は「女職工労働保護特別規定」第7条に基づいて98日と規定されているが、北京では市の「人口計画出産条例」によって30日が追加され、合計128日の産休を取得できる。同条例では配偶者にも15日間の産休が認められているが、2人ともその間は基本給しか支給されないため、収入は半減した（基本給は4000～5000元。約65000～81000円）。

パンデミック下では日本と同様、産科医院への出入りが制限され、王敬さんが初めて息子に会えたのは出産3日後だった。その後も一家の暮らしは複雑な状況にある。それはパンデミックのためでもあるが、そもその北京の住宅事情も関係している。

王「美玲はいま北京郊外の彼女の両親と実家に住んでいて、主に彼女の母が生まれた孫の面倒をみている。そこから美玲が勤めている病院までは15km。私はその地域から50km離れた病院で働いていて、病院近くに私の母と二人で住んでいる。今は救急

科に配属されている（毎年4ヶ月救急科の勤務がある）。月曜は日勤、火曜17時から翌日まで夜勤、木曜は休み、金曜は日勤のようなローテーション勤務で、息子に会えるのは4日に一度。家事を負担したくてもできない状況にあるので、今は家族の足を引っ張らないようにすることで精一杯。北京での子育ては、両親のヘルプなしにはあり得ないと思う。本来は、美玲の病院の近くに部屋を借りる予定だったが、ちょうど彼女の父親の鉄道関係の会社が「福利房」³を分譲販売することになり、そのためにみんなで節約してお金をためているところ。でも福利房に住む予定はない。同じ場所で同じ面積なら少なくとも460万元（約7400万円）以上するところ、社員への福利として270万元（約4400万円）で買うことができる。場所がいいので、そこは賃貸として出せば月6000～7000元（約97000～114000円）の家賃収入が得られる。そのためにいろんなところからお金を借りている。若いうちに組めるだけローンを組んで、今後少しでも良い暮らしになるよう頑張るつもり。

いま母と2人暮らしなのは、住んでいたマンションが2017年から建て替えのため立ち退きになったため。来年新しいマンションに引っ越すま

では賃貸に住んでいる。その間は、国から家族1人に付き毎月2000元（約32000円）の家賃補助金がもらえる。うちは4000元の補助金をもらっている。

本当は2020年末には引っ越すはずだったけど、マンション建設予定地で「釘子戸」⁴の問題があり国家の対応も遅かったため、計画が遅れた。さらに各部門の手続きもとても遅く、そこでパンデミックになってしまった。大変だけど引越するまで、夫婦はそれぞれの親と一緒に、別々の暮らしになる。」

III. 解説

それぞれの医師たちの語りをよりよく理解するために、中国と日本の女性医師を取り巻く環境の違いについて解説を加えたい。

1. 医師のジェンダー状況

厚生労働省の2018年の統計によると、日本で医療施設に従事する女性医師は医師全体の21.9%でOECD諸国では最低レベルである。男女の構成比を年齢階級別にみると、女性の割合は、年齢階級が低くなるほど高く、29歳以下では35.9%である。また診療科によって男女比の差が顕著であり、女性の多い科は順に皮膚科54.8%、産婦人科44.5%、乳腺外科44.1%、眼科42.4%、麻酔科40.9%、糖尿病内科37.3%、そして小児科34.8%と続く（厚生労働省2018）。

これに比べて中国の医師ではジェンダー

3 国家や国営企業が建設し、企業の従業員に福利厚生の一環として低額で貸与される公共住宅のこと。

4 強制立ち退きさせられるまで立ち退かない住民のこと。

比の偏りが少ない。『2019年中国衛生統計年鑑』によると、同年（2018年）の中国の医師の男女比は、男性54.2%、女性45.8%である（国家衛生健康委員会2019）。日本では医学部入試におけるジェンダー差別が話題になったが、中国・北京大学医学部基礎医学院（医学科に相当）の2020年9月入学の新入生の男女比を調べると、男女比は1:1であった（北京高中直通車2020）。診療科別の状況についても、筆者の知る限り、外科以外のほとんどの診療科で女性医師と男性医師の比率はほぼ同等である。例えば「婦幼保健院」（産婦人科、小児科を中心とする専門病院）の医師の男女比では女性医師は73.7%にも達する（国家衛生健康委員会2019:63-66）。こうした状況をとらえると、中国において女性医師が働きながら子育てをすることはきわめて一般的であり、日本に比べ、職場での共感やサポートを得やすいと思われる。

ただし女性医師たち自身が、ワークライフバランスに満足しているとは限らない。医師たちの幸福感についての報告書『2019中国医師幸福感指数研究報告』によれば、男性医師の幸福指数が10段階で7.30であったのに対して、女性医師の幸福指数は6.90と低かった。また同報告書によれば、一般的に男性医師の方が休暇を取得する時間が長く、残業時間も長く、平均収入が高い。仕事と収入に対する満足度も男性の方が高かった（健康界研究院2019）。こうした点において、中国の医療現場にもジェンダーの問題は確実に存在する。

ただし、収入差には労働時間の違いが反映されている可能性がある。同一労働単位

あたりの収入に性差があるかどうかは、詳細に検討する必要があるだろう。そして次節でふれるように、基本給が男女で同じだとしても、さまざまな追加業務を担うことができるかどうかについて、出産・育児期の女性医師とそうでない医師とのあいだに差異がある可能性がある。

2. 医師の経済状況について

筆者が行った聞き取りにおいて、医師たちは総じて「患者が少なくなったため、収入も減少した」と考えていた。医療は本来であれば「商品・サービス」ではなく、社会資本として位置づけられるはずだが、医師たちのあいだではそのような感覚が共有されていないように思われる。

筆者が留学していた2006年～2013年頃、医学生の間でも医師の給料が低すぎるという問題は日常的な話題だった。先述の『2019中国医師幸福感指数研究報告』でも、基本給で1万円を超えると回答した医師は、回答者全体の14.2%しかいなかった。実際、中国が急速な経済成長をしていくなか、中国の病院は基本給ではなく、それ以外の手当で医師たちの給料を増やしてきた。

インタビューにおいて王敬さんは、「毎年4ヶ月救急科に入らなければいけないのは、病院の経営方針で、救急科の医師を新たに一人雇うよりコストパフォーマンスが良いから」と語った。彼の上司である医師の基本給は2001年には800元（約13000円）だったのが、2012年には5000元（約81000円）になったという。現在医学部卒業後10年を迎えた筆者の友人医師の多くは、平均して1万円以上の月収があったが、パ

ンデミックにより半減、または3分の1になった。その基本給が2012年の頃とさほど差がないとすれば、医師の基本給のこの10年とそれ以前の10年との比較では、上昇幅は限定的であろう。

医療従事者の収入の減少は世界的に起きているが、その地域や国の医療政策等によって状況は異なる。中国の場合、多くの医師たちは基本給の低さを補うためにワークライフバランスを欠く働き方をせざるを得ないようだ。パンデミック前に李英さんの夫が子どもに存在を認識されないほど忙しく働いていたという事実は、そのことを表している。同じ子育て中であっても、李

さん自身が同様の働き方をしていないことから、男性に比べ、女性医師たちの収入が不安定になりやすい可能性がある。

医師たちの語りからは、2000年代から長期的に続く不動産バブルの影響もあいまって、とりわけ若い世代において、生活の基盤としての住居の確保が困難になっている状況も垣間見える。パンデミック期には多くの人びとが生活の質の低下を経験したが、それは往々にしてパンデミック前からの構造的問題と接続している。北京の医師たちの日常の変化もまた、中国社会におけるジェンダーの問題を反映していると考えられるべきだろう。

参考文献

- 安居客, 2020, 『朝陽房価』(朝陽区の住宅価格動向), (2021年2月6日取得, <https://beijing.anjuke.com/market/chaoyang/>).
- 健康界研究院, 2019, 『2019中国医師幸福感指数研究報告』, 健康界智库, (2021年2月7日取得, <https://zk.cn-healthcare.com/doc-show-35087.html.pdf>).
- 厚生労働省, 2018, 『平成30年(2018年)医師・歯科医師・薬剤師統計の概況』(2021年2月6日取得, <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/18/index.html>).
- 国家衛生健康委員会編, 2019, 『2019年中国衛生統計年鑑』中国協和医科大学出版社: 39頁.
- 北京高中直通車, 2020, 「关注 北大医学部2020級新生大数据公布, 男女比例1:1!」『搜狐』10月15日, (2021年2月6日取得, https://www.sohu.com/a/424898287_372471).

(掲載決定日: 2021年5月14日)